

光之ニ代リ、元中八年、子詮範、山名氏清ヲ伐テ功アリ、丹後ヲ加賜シ、孫義貫ニ傳フ、永享中、將軍義教、武田信榮ニ命ジテ義貫ヲ殺シ、信榮ヲ以テ守護ト爲ス、相傳ル九世、元明ニ至リ、朝倉義景ニ合シテ織田信長ヲ拒ム、義景亡ビ、元明降ヲ乞フ、信長丹羽長秀ヲシテ州ヲ監セシム、天正十年、豐臣秀吉、元明ヲ近江海津ニ誘致シテ之ヲ殺シ、武田氏亡ブ、長秀因テ守護トナル、十三年、長秀卒シ、子長重嗣グ、十六年、秀吉之ヲ松任ニ徙シ、淺野長政ヲ封ズ、文祿二年、甲斐ニ轉封シ、其地ヲ分テ小濱石六萬、木下勝俊ニ、高濱石貳萬、其弟利房ニ賜フ、關原役畢リ、徳川氏二人ノ封ヲ沒シ、京極高次ヲ封ジ、小濱ニ治ス、寛永元年、子忠高、越前敦賀ヲ加賜ス、十一年、之ヲ出雲ニ徙シ、其故地ヲ以テ酒井忠勝ニ賜ヒ、世襲ス、王政革新、改テ縣トシ、又廢シテ敦賀縣ヨリ兼治ス、

〔先代舊事本紀十造〕若狹國造

遠飛鳥朝九御代、膳臣祖佐白米命兒荒礪命定賜國造、

〔政事要略十一月〕中卯新嘗祭事

高橋氏文云、六鴈命七十二年雄之秋八月、受病同月薨也、時天皇聞而大悲給、准親王式而賜葬

也、於宣命使遣藤河別命、武男心命等宣命云、中和加佐乃國波、六鴈命爾、永久子孫等可遠世乃

國家止爲止、定天授介賜天支、此事波世々爾過利違傍志、

〔續日本紀二十〕天平寶字五年六月庚午、以從五位下大野朝臣廣立爲若狹守、

〔若狹國守護職次第〕一右大將賴朝御代

津々見右衛門次郎忠季守護領、當保一圓知行之、建久七年九月一日、守護本下司稻庭權守時定跡拜領之、但正治御下知、遠敷郡并三方郡此內十六箇所、藤民部大夫行光朝臣、建仁三年十二月廿二日、雖給之、元久元年八月廿九日、忠季返給之了、又於遠敷郡內九箇所者、左兵衛尉藤原家長、建仁三